

## 1 - 1 北海道とその周辺の最近の地震活動 (1988年6月～11月)

### Recent Seismic Activity in and around Hokkaido (June - November, 1988)

北海道大学 理学部

Faculty of Science, Hokkaido University

この期間の浅発地震の震央分布を第1図に示す。6月から7月にかけては有感地震を含むいくつかの地震活動が北海道の内陸で広域的に発生していたが、8月以降の活動は渡島半島に集中している。これらの中で最も顕著なものであった北海道東部地域の地震活動については別に報告されている。<sup>1)</sup>

十勝沖から釧路沖にかけての領域で、1988年になってから5月7日にM6.4、7月7日にM6.2、10月10日にM6.0とM6以上の地震が3回発生した。第2図に震央を示す領域の地震の積算地震回数曲線を第2図Dに示す(1983年4月から地震発生率が高くなっているのは観測点の増強による見かけ上のことである)。1988年に地震発生率が高くなった傾向は全くうかがえない。第3図Aに示す領域の過去1年間の積算地震回数曲線を第3図Bに、地震活動モニター図<sup>2)</sup>を第3図Cに示す。経験的に決めた警戒ライン(第3図Cの点線)よりも地震活動が低下したことはなかったが、M6.2の地震の前には地震活動度の低下があったかもしれない。この地震は多数の余震を伴っており、広域応力場との関連でいえばM6.4の地震より注目すべきものであったといえよう。第3図Bからは、1988年4月頃から地震発生率がかなり明白に低下して現在に至っていることが指摘出来る。急激にもとの発生率にもどるとすればかなりの大地震の発生も想定されるが、現在のところこれを示唆するような地震活動空白域などは見当らない。いずれにしても、今後の地震活動の注意深い監視が必要である。

(本谷義信)

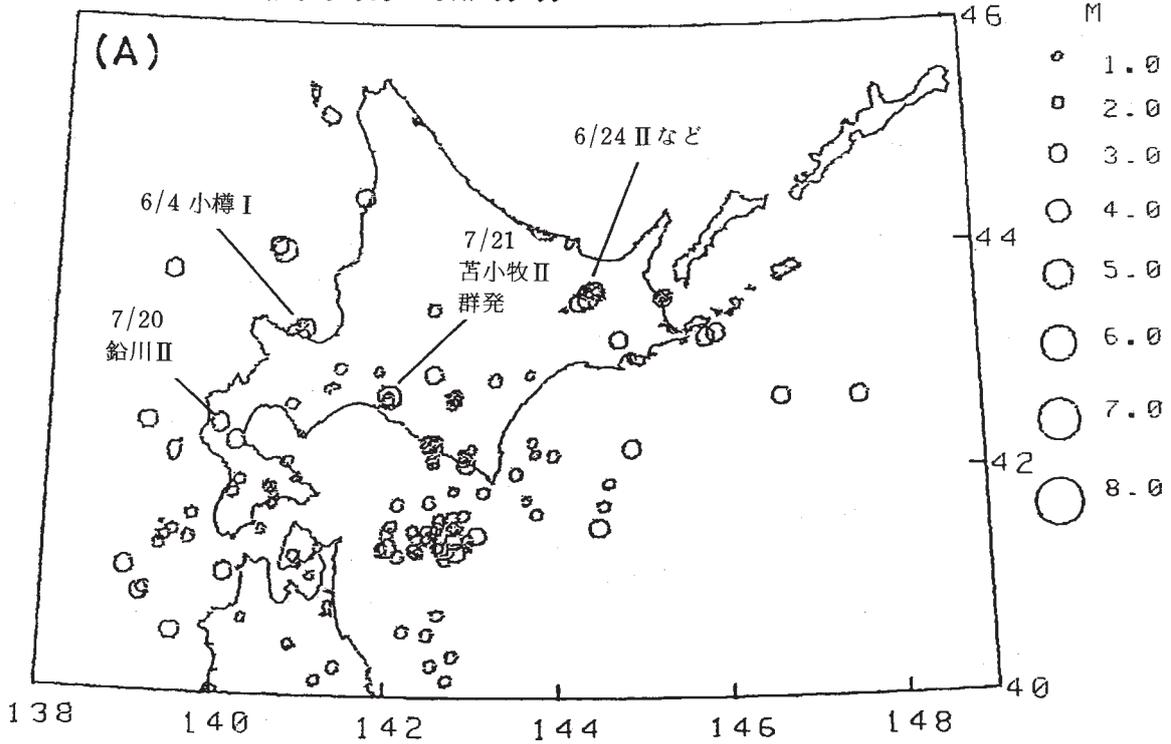
### 参 考 文 献

- 1) 北大理学部：北海道弟子屈町付近の浅発地震(1988)，連絡会報，**41**(1989)，6 - 9.
- 2) 北大理学部：北海道とその周辺の地震活動の常時監視，連絡会報，**39**(1988)，7 - 10.

RCEP

T=880513-880818 H= 0.0- 30.0  
M=0.0-9.9 STN=00-00

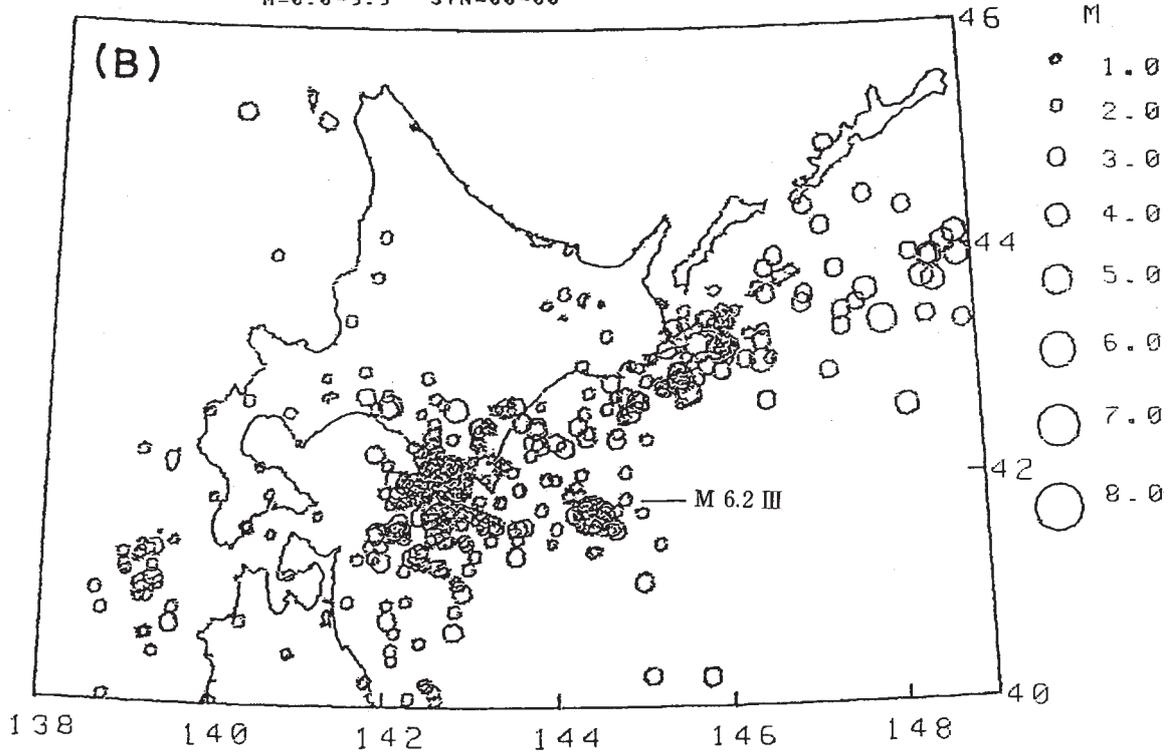
NPLOT=00127



RCEP

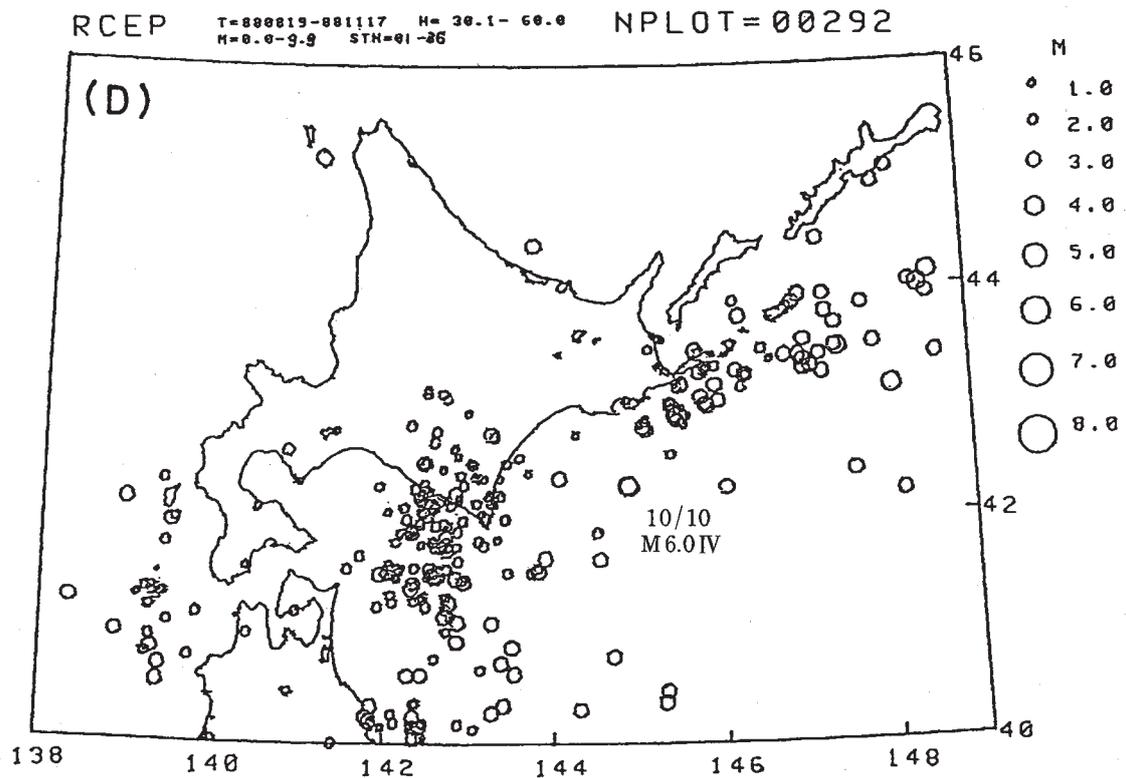
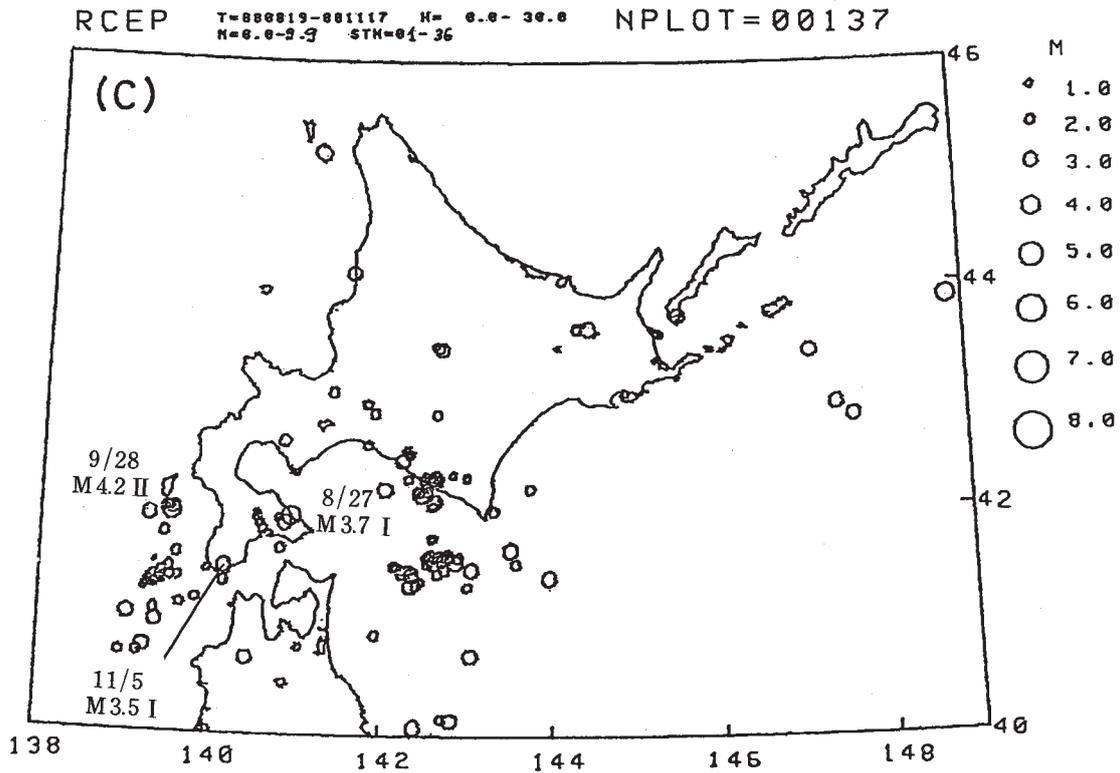
T=880513-880818 H= 30.1- 60.0  
M=0.0-9.9 STN=00-00

NPLOT=00446



第1図 北海道とその周辺の浅発地震の震央分布

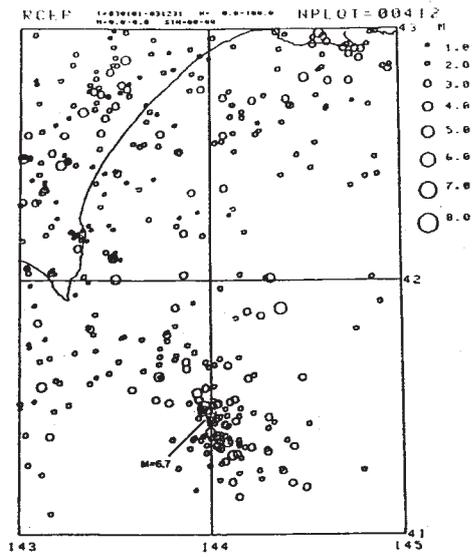
Fig.1 Epicenter distributions of shallow earthquakes in and around Hokkaido.



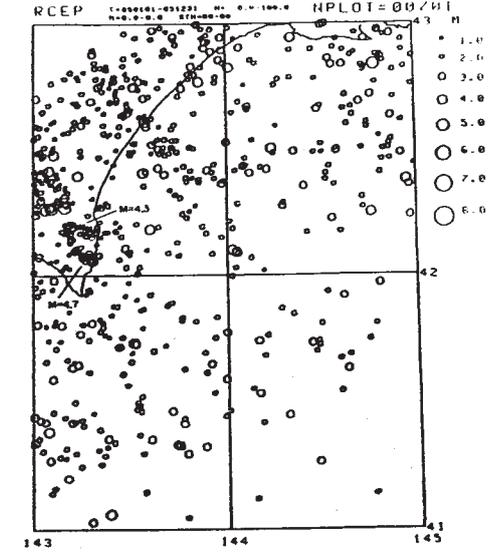
第1図 つづき

Fig. 1 (Continued)

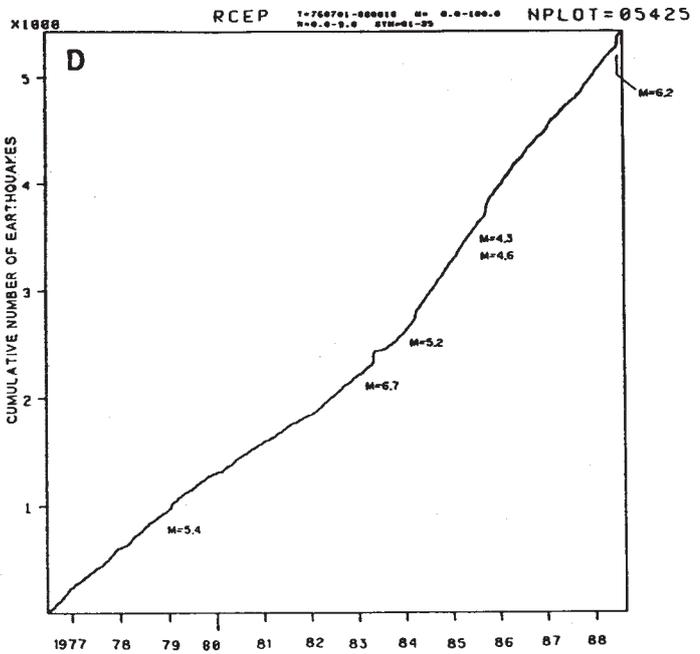
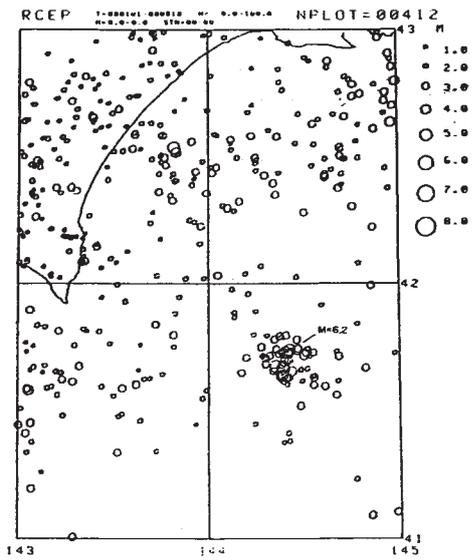
A 1983



B 1985

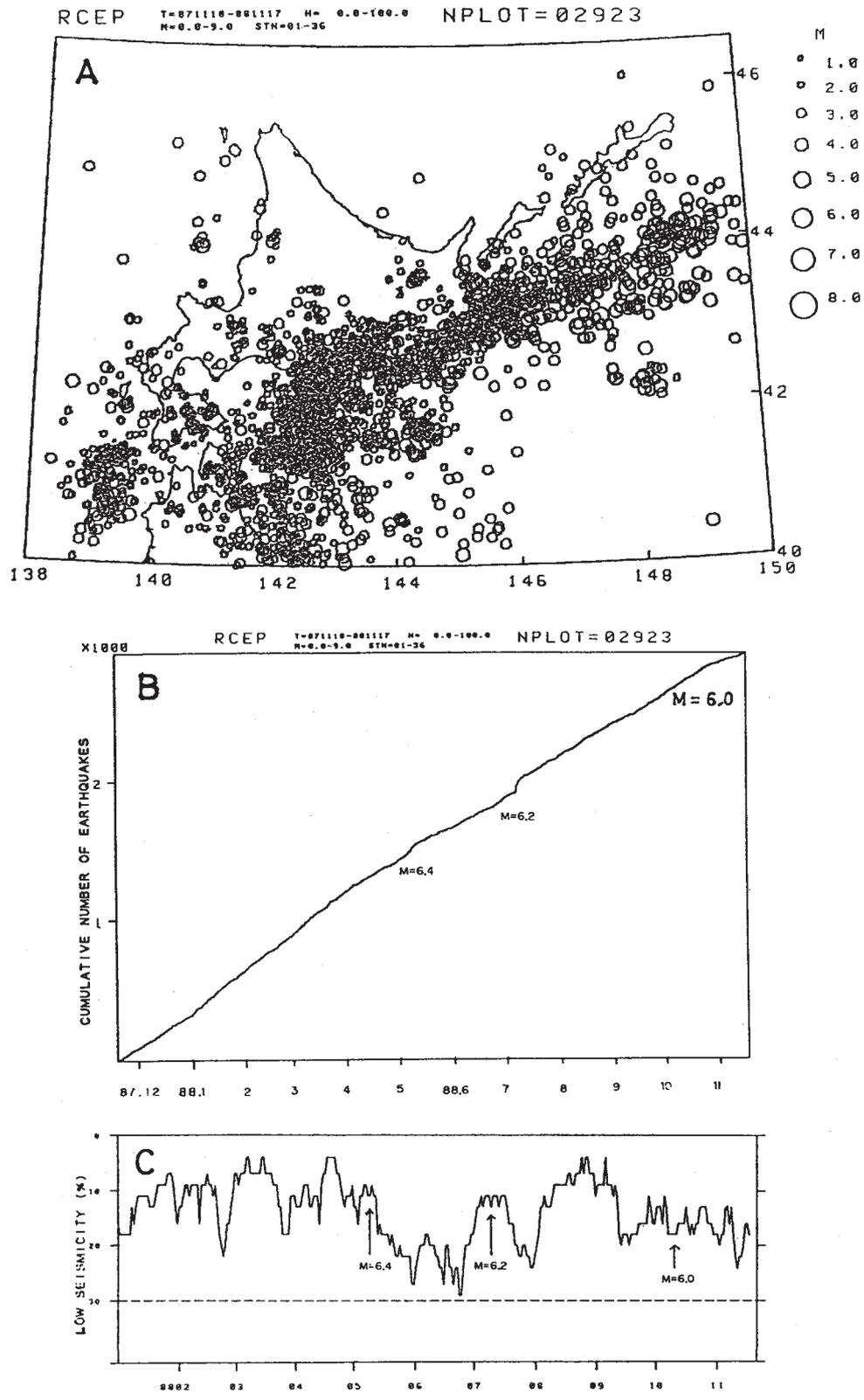


C 1988



第2図 主として十勝沖の地震の震央分布と積算地震回数曲線

Fig. 2 Epicenter distributions and cumulative number of earthquakes. The increase in the earthquake occurrence rate after April, 1983 is artificial due to the increase in the number of seismic stations.



第3図 北海道とその周辺の最近1年間の地震活動。活動度の表示法Cは文献2)参照

Fig. 3 A: Epicenter distribution of shallow earthquakes. B: Cumulative number of earthquakes. C: Low seismicity monitoring, ordinate showing downwards the degree of low seismicity in the region A as a whole.